

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年11月10日

【評価実施概要】

事業所番号	3270700382		
法人名	社会福祉法人 浜田福祉会		
事業所名	グループホーム みかわ		
所在地	島根県浜田市内村町365番地4		
	(電話) 0855-26-0348		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県 松江市 白潟本町 43番地		
訪問調査日	平成19年11月1日	評価確定日	平成19年11月30日

【情報提供票より】 (平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤6人, 非常勤2人,	常勤換算8.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1	0	要介護2	4			
要介護3	0	要介護4	5			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	88.3歳	最低	65歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浜田医療センター	中村呼吸器内科医院
---------	----------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは、周囲に緑が比較的多いやや小高い丘の上であり、周囲には民家が点在し、静かな環境である。同法人の運営する特老とデイサービスセンターが隣設して、行事等、入居者・職員間の交流がある。施設内は、共同スペース・居室共に家具やソファの配置、装飾等工夫が施され、家庭的な雰囲気である。管理者・職員は理念を共有し、内外の研修に積極的に参加するなどケアの向上に前向きに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で改善項目とされた管理者・職員間の理念の共有、入居者と一緒に食事、苦情への対応等改善されているが、理念を簡潔に、又、第三者の目の付き易い所に明示すると言う点は、まだ改善されていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員では取組まれていないが、管理者・職員は自己評価及び外部評価の意義を理解し、取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業所の運営状況、行事内容、入居者の状況などを報告し、メンバーからの意見を聞いている。そこで出た課題を地域密着会議に出し、意見を聞くなど改善に向けている。しかしまだ、計画されていた「奇数月に開催」が軌道に乗っておらず、計画的に開催することが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口が文書に明示され、玄関に苦情受付箱が設置されている。又面会時に家族と話をし、意見を聞いているが、家族が意見を出し易い体制を検討していただきたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域とは、入居者や職員が地域の行事に参加したり、事業所側では喫茶を開いて地域の人を招いたり、ボランティアを受け入れたりしているが、まだ日常的な交流が少なく、地域への事業所側からの働きかけも稀薄である。今後、事業所が、地域と密に連携できる取組みが望まれる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念はあるが、「地との交流の元で」という表現が入っていない。文章が長く、又事務所に掲示してある。	○	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続ける事が「地域密着型サービス」の役割であり、「理念」に取り入れて文章化していただきたい。今後文章の簡素化と、第三者の目の付き易い場所に掲げる様検討して頂きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は理念を共有し、年度毎に介護目標を決めてケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元のボランティアを受け入れたり、中学生の体験学習を受け入れている。又、地域の行事や学校の行事に参加したり、田植え、稲刈りのときに出向くなどしているが、日常的な交流が少ない。	○	地域への事業所側からの働きかけが稀薄である。今後、事業所が地域と密に連携をとり、地域で必要とされる活動や役割を担う様な取り組みが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は外部評価の意義を理解し、改善に取り組んでいる。しかし、日常的に話し合う所にまでは至っていない。	○	自己評価・外部評価の内容、検討課題を年間計画の中に位置付けて、取り組んで頂きたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーに家族会、行政、地域住民が入っており、ホームの運営状況や入居者の様子を報告し、運営に関する意見交換を行っている。	○	今年より2回開催されている。「ホームでの様子が解る」と家族から評価を得ている。今後、計画的に継続して頂きたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する地域密着部会で他施設と共に、市と意見交換の場を持っている。市担当者ともグループホームの入居者の事で相談しやすい関係作りが出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求書と共に「たより」と金銭出納、写真を同封したり、状況報告等を行っている。又、面会時に入居者の状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「重要事項説明書」に「苦情相談機関」が明示されている。玄関には「苦情受付箱」が設置されているが、今まで1件だけである。面会時に意見を聞くことが多い。	○	意見は職員間で話し合っているが、家族がより意見・苦情を出し易い体制作りが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設間移動は最小限に抑える努力をしている。新しい職員が入った場合も、入居者と早期に馴染みの関係を作る努力をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は法人内外で計画的に行われており、報告書に記入し、職員間で閲覧している。研修内容を会議で報告したりもしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は他のグループホームを訪問し、情報交換を行い、グループホームの運営について事業所に意見を反映させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が決まるまでの期間が短い為、個々のケースでの入居までのサービス対応が難しいと考えており、十分対応出来ずに入居される場合が多い。	○	空きベッドを利用してのショートステイ、デイサービスの検討など、行って頂きたい。又、入居前の自宅訪問など検討して頂きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の入れ替わりが比較的少ない為、職員と入居者の関係作りが出来ている。年齢差の大きい(34歳)入居者に対し、日常のケアや、対応に戸惑う事もあるが、考慮して対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者1人1人の生活暦を把握し、それを日常のケアに役立てる努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	いる。 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「サービス計画書」を見直す際は、職員の日々の気付きや意見を取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ほとんどの入居者が自分の意思を伝えられ、伝えられない人は、その人の思いを計画に反映する様、職員会議・グループホーム会議での職員の意見を取り入れ、介護計画の見直しに生かしている。新たに計画を作成し直した時には、本人・、家族に伝え、同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的には定期的な医療機関への受診は家族の付き添いとなっているが、状況に応じて通院支援を行っている。又、家族等との外出・外泊についての支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が以前からの掛かり付け医を持っており、それを継続されている。受診の際にはその報告を家族から受け、記録に残している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、入居時、又その後も定期的に、本人・家族と話し、特老入居の場合もあると話している。	○	重度化した場合、どこまで事業所として対応し得るか、職員と話し合いの場を持ち、かかりつけ医とも話し合いながら、今後の方向性を検討して頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけ、対応には、本人の人格を尊重する意識を職員は共有している。が、時に一方的な声かけになる事もある。	○	ミーティングなどでの振り返り、意見交換が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どこまで本人のペースを優先するか、身体機能の低下の危険性と照らし合わせながら、できるだけ本人のペースに合わせるよう、ケアを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者の食事の好みを把握しており、一緒に食事を摂りながら味加減を聞いたりしている。食事の準備など、可能な入居者と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能で時間帯も長くなっているが、本人から希望される入居者が少なく、出来るだけ本人の意向にあわせながら、職員が促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が出来る事はしてもらい様な日常生活での支援を行っている。回数はまだ少ないが、遠出の外出もつい最近行った。併設する特老に「居酒屋」を設け、入居者も利用している。「木曜喫茶」を月1回行い、地域の方、家族の方にも来てもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望される入居者が少なく、頻度は少ないが、支援する体制はとっている。外出する機会の少ない入居者を誘い、ドライブするなど配慮している。年齢差を考えた外出先の配慮も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は6:30に開鍵し、仕事帰りでの面会も考慮して23:30に閉鍵している。警備会社に委託し、共同の元、出来るだけ施錠しない方針を取っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練は出来ており、災害時の連絡体制、マニュアルもあるが、地域住民・事業者間との連携が十分ではない。非常用の食・飲料水、備品の備蓄がない。	○	災害時に警察・消防署はもとより、地域の方々に協力を得られるよう、機会ある毎に話し合ってもらいたい。非常用の備蓄を行って頂きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は、栄養士に見て貰い、指導を受けている。適度な水分補給も入居者1人1人に合わせ、心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はテーブル、TV、ソファ等適宜に配置され、使いやすい空間になっている、壁には入居者の作品や写真などが貼られ、廊下、玄関にも家庭的な小物が置かれている。室温も夏、冬と設定温度の基準を決めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基本的に施設の設置（ベッド、タンス）だが、入居者の状態に合わせたベッド、ポータブルトイレなどの使用が出来る様になっている。個々の入居者の馴染みの物が置かれている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。